

会議（打合せ）報告書			
会議(打合せ)の 名称又は議題	平成31年度 第3回 白井市産業振興ネットワーク会議 会議録		
日時	令和2年2月5日（木） 午後2時～4時	場所	白井市保健福祉センター 2階 研修室2
出席者	鈴木委員長、野水副委員長、山口委員、海老原委員、福田委員、押田委員、中溝委員、染谷委員、石毛委員、宮地委員、黒木委員、瀬口委員、（欠席委員3名） 事務局：川村産業振興課長、高花副主幹、山口主査、綿崎主任主事、高仲主事 傍聴者 1名		
<p>（会議開催の趣旨）</p> <p>白井市産業振興条例第8条第2項に基づき、産業振興に関する施策を調査審議するため、平成31年度第3回の白井市産業振興ネットワーク会議を開催した。</p> <p>（内容）</p> <p>別紙のとおり。</p>			

○事務局 それでは、皆様お待たせいたしました。本日は、委員の皆様におかれましては、大変ご多忙のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

会議に先立ちまして、本日のスケジュールをお知らせいたしますが、お手元の会議次第のとおり進めてまいります。会議の終了はおおむね4時ごろを目安とさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、小川委員さん、板橋委員さん、米田委員さんにつきましては、所用のため欠席との事前連絡を受けており、本日の会議は委員の12人の皆様が出席されていることをご報告させていただきます。

あと事務局のほうでも、市民環境経済部長の川上が欠席とさせていただくことをご報告させていただきます。

また、資料のほうはあらかじめ郵送させていただいておりますが、皆様に届いておりますでしょうか。もしなければ、今、事務局のほうにおっしゃっていただければと思います。大丈夫そうですね。

次に、会議前に皆様へのお願いとして、今回も録音データで会議録を作成するため、音声で判別のつきにくい発言者のお名前がわかるように、意見を述べる際には手を挙げて、委員長さんに指名してもらってからご発言いただきますよう、本日もお願い申し上げます。

なお、本日の会議は白井市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、公開の会議となりますことをご了承願います。

それでは定刻となりましたので、ただいまより平成31年度白井市産業振興ネットワーク第3回会議を開催いたします。

まず、鈴木委員長にご挨拶をお願いしたいと存じます。鈴木委員長、よろしくお願いいたします。

○鈴木委員長 皆さん、こんにちは。きょうはお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。この産業ビジョンの策定も、徐々にでありますけれども、資料ができてきておりますので、本日も皆様のご忌憚のないご意見いただきながら、いいものをつくっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。それでは、ここからの議事進行は委員長に委ねたいと思います。鈴木委員長、よろしくお願いいたします。

○鈴木委員長 それでは、第3回会議の議事を進行させていただきたいと思っております。

また、前回の会議におきましては、今後産業ビジョンの策定において骨子を決めていきたいということでしたけれども、まだ議論までには至ってはおりません。本日は議題を四つ用意させていただいております。一つ目が産業振興ビジョンの骨子案についてというもの、二つ目がアンケートの集計結果、三つ目が農商工業にかかわる現状と課題についてということで、今回の中心となる議題は、議題1の産業振興ビジョンの骨子案をもんでいくということと、3番目になりますけれども、農商工業にかかわる現状と課題についてとい

うことで、皆さんの建設的なご意見をいただければと思います。

それでは、議題に入っていきたいと思います。まず議題1でございますが、産業振興ビジョン骨子案についてということで、まず事務局のほうから説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、白井市産業ビジョンの骨子案の議題についてご説明していきたいと思います。済みません、着座にて説明させていただきます。

前回の会議で産業振興計画のところ、目次案というものをこのようなことをつくっていききたいというふうに提案させていただきましたけれども、目標値がないとだめだよねとか、まだ議論までは至ってないよねなどの意見をいただいたこともありまして、事務局のほうでどのようなものかというものを考えたときに、白井市としましては、改めて提案させていただきたいのですけれども、白井市産業振興ビジョンということで進めていければと考えました。本来、産業振興計画というのは期間があって、計画が実行し、評価というものが出てくるものにはなるのですけれども、ビジョンということで、それを少し和らげたというか、方向性を向いていって、地域の産業振興、発展をしていければというものにしていければということを考えました。事務局としまして、なぜビジョンなのかと申しますと、今は少子高齢化とか社会情勢、周辺環境の変化、あるいはものすごく地域が目まぐるしく変わっているときにありますので、そこを柔軟に対応すべく、方向性、将来像のようなものを掲げて、各産業の持続的な発展を目指していきたいということで、改めてビジョンとしていければなということで考えました。

では、ここで別添3をごらんください。別添資料の3、A3の横のようなものになります。前回、近隣5市の事例というような、基本的検証までは至ってはいないのですけれども、このような細かいものを読み切れないとか、事務局でまとめたものをつくれぬのかというような意見をいただきました。大変申しわけないのですけれども、できれば令和3年の春ごろをめどにそれなりのものをつくっていければというところで、時間のない中というところもあるのですが、皆さんの協力をいただきながら、何とか策定に向けて行けたらと思っているのですけれども。なので、一つ一つ検証しているというところまではいってなくて、簡単な目次、骨子案だけをまとめさせていただきました。

比べて見ていきますと、例えば表面、富里市では四つの項目に分かれていて、ビジョンの策定に当たって、現状と課題、産業構造の方向性、計画の推進ということで、すごく整理されたものになっています。やはりどの市も一つキーワード、将来像、方向性、方針のようなものを掲げていまして。例えば富里市では、創ること・繋ぐこと・培うことをキーワードに産業振興ビジョンができています。富里市はちなみに平成30年から3年間の計画。

次に、習志野市ですけれども、習志野市も似たような中身ではあるのですけれども、基本方針としまして、未来のために～みんながやさしさでつながり、働き、暮らせるまち～習志野、ということの基本方針で掲げて産業振興計画ができ上がっています。習志野のほ

うの特徴的なことは、第4章の事業計画の中で農業・商業・工業というよりは、それぞれの各テーマごとにおおまかな戦略をつくって、その中で個別に計画をつくっているようなものになっています。習志野市は27年から31年までの5カ年の計画です。

次に、新しく京田辺市というものを挙げさせていただいたのですけれども。前回の会議で、やはりもうちょっと近隣市で似たような類似自治体とか、関東近辺などにいいものがないのかというような意見もありました。済みません、事務局のほうでなかなかそこまで全て見切れてはいないのですけれども、ざっくりと見たところ、なかなかいい参考になるものが見当たらず。そうしたときに、ちょっと離れた地域ではあるのですけれども、京都と奈良に挟まれた京田辺市というところがありまして。ここが、農業・商業・工業と、ものすごくわかりやすく整理されたビジョンになっていたのも、ここを一つ参考としていきたいなというところで挙げさせていただきました。

京田辺市も、いわゆるビジョンということで、方向性を、事業者と市民がともに手を取り、快適な事業環境と豊かな生活を創造するまち、ということ全体ビジョンにして、全体的なビジョンができ上がっています。特徴的なものとしては、1章、2章、3章、4章、富里市とよく似ているのですけれども、3章の中で全体ビジョン、分野別ビジョン、分野別基本方針という三つのそれぞれの方向性、方針を定めて、ビジョンができ上がっています。計画期間は28年から37年までの10年間で、前期5年、後期5年ということで区別をしております。

2枚目の方をごらんください。これ、農業がないのですけれども、白井市と比べてかなり大きな自治体にはなっているのですけれども、近隣ということで、船橋、柏、成田を比べさせてもらっています。

船橋は、27年11月から10年の計画になっています。特徴としましては、第3章で商業の目標、工業の目標、横断的目標ということで、ここで戦略、目標といっても、これ、文章ではあるのですけれども、そうしたものを目標に掲げて、かつ個別の事業を展開していくというものになっております。ちなみに船橋の将来像のキーワードは、「チーム船橋」でつなぐ市民力と産業力「オンリーワンシティ船橋」というのを将来像に掲げてプランができています。

次に、柏市ですけれども、柏市は31年3月からのもので5カ年計画になっています。やはり最初は目的、位置づけ、計画期間、次に現状と課題とあって、やはり3項目で基本戦略ということをつくっていて。柏市は、一部重要項目にのみKPI、目標値のようなものを定めております。基本理念としましては、先端産業と地域産業をむすび、産業振興を通じて新たな価値を生み出す価値創出都市「柏」、というのを基本理念に掲げています。

最後に成田市ですけれども、これは平成26年から32年までの7カ年の計画になっています。成田市は標語というか、成田市のまちづくりの基本理念というものがあって、住んでよし、働いてよし、訪れてよし、ということの基本理念とし、これを冒頭に持ってきつ

つ、第4章の第2節に基本目標という項目があるのですけれども、ここでそれぞれの産業テーマ別の目標、それも文章なのですけれども、それを設定して、それに取り組む計画になっています。

鎌ケ谷市や印西市などでもこのような計画があれば、それも参考にしていきたいのですが、でも、まだ鎌ケ谷市では企業の誘致計画であったりと細かいものはあるのですけれども、産業振興計画・ビジョンのようなものはまだないので、近隣、大きなところばかりにはなってしまいましたが、このような事例ということで採用させていただきました。

○委員 印西市はないですか。

○事務局 印西市は、まだありません。

それでは、別添資料1と2をごらんください。これは、きょう改めて事務局で提案させていただいたものになるのですけれども、できれば市民にわかりやすく、コンパクトにしていきたいということで考えました。そういったときに、基本的な項目は富里市と京田辺市を参考にしています。細かいことは右のコメントで説明を記入してあるのですけれども、補足で説明しますと、まず1章、2章、現状と課題、3章、ビジョン、4章、戦略的推進ということで項目になっていまして。

1章の期間については、これまた後ほど皆さんに5年計画がいいのか、もっと短いのがいいのか、10年計画がいいのかということもちょっとお話し合いいただければと思うのですけれども、基本的に事務局としては今5年でどうだろうかということを考えています。なぜ5年かといいますと、今、市のほうで後期基本計画の5カ年計画の策定をしているところで、またその5年後には、今度、第6次総合計画の10年計画をつくっていかねばなりません。なので、そこでの整合性等を考えていかねばならないことから、今回初めてつくるビジョンになるので、お試しということではありませんけれども、今回は一旦5年でつくらせていただいて、次つくるときに、見直しのときには総合計画と合わせて10年計画でいければというふうに考えました。しかし、これは5年ごとがいいのか、10年ごとがいいのか、その辺はまた議論いただければと思います。

2章ですけれども、やはりこれ、どこも同じように現状と課題が中心の項目ですけれども。現状と課題については、事務局のほうでたたき台案を下案をつくって別に、もしかしたら一つにしてしまうかもしれません。イメージとしては、農業・商業・工業のそれぞれの現状と課題を落としていきたいと思っております。その他に、例えば京田辺市であったり富里市だったり、また成田市もそうなのですけれども、やはりそれぞれの地域特性というものがあまして。白井市も実は今ものすごく変わっている部分があります。例えば今後のポテンシャルでいえば、北千葉道路の開通によって沿道がかなり変わってくることも想定されますし、将来的には千葉県西部の交通の要衝になるのではなかろうかと考えられます。また、隣の印西市においては、以前は商業施設がものすごく立地していたのですけれども、今は、実は大手IT企業のデータセンターの立地の勢いがすごくて、今、千葉ニ

ユータウン中央駅の東側はビジネスモールに変貌しようとしています。そうした地域特性も文章で落としながら、今後のポテンシャルということを入れてみたいと考えております。

第3章では、全体のビジョン。これは市の将来像、産業振興上の将来像である、方針、これをちょっと考えていきたいというふうに考えていて。さらに、2の分野別ビジョンでは農業・商業・工業、それぞれの基本目標、文章のようなものを考えて、なおかつそれを農業・商業・工業のビジョン、方針を実践するための、3で分野別基本方針というものを、この後やります、現状と課題を踏まえて入れていきたいと考えております。次、4のその他の施策展開には、これはあくまで一例です。例えば、他市もそうなのですが、基本方針に埋められないものや、その他特出しにするトピックス的なことをこういうところに入れ、こういうことを強化していきますということで表現しているのです、そうしたことを入れていきたいと考えています。

4章では、名称を戦略プランとさせていただいたのですが、これは3章の3の分野別基本方針を実行するための実質的な計画になっていきます。ここでは、重要項目についてはやはり前回も意見ありましたように、ある程度目標値のようなものを入れたり、期間であったり、事業主体であったり、例えば、雇用に関することや農業地視察、市民雇用の数や誘致件数。そういったものを多少指標化していきたいと考えております。実質的な計画シートがこのようになってくるというイメージになります。

その他、既にある計画というのがありまして、それについては、各基本方針や戦略プランの中に内包させていければなと思っております。

まだちょっとどんなイメージかというのをつかみにくい部分があるかと思っておりますので、それをすごく整理してわかりやすく感じたものが、京田辺市にわかりやすい施策体系がありましたので、別添資料7をごらんください。A3の横のものになるのですが、イメージとしては、ここはすごくよく整理されていて、見える化できていたので、このようなイメージのものを。ここまで、京田辺市は産業力も違いますし、大学もありますし、高速道路もありますし、かなりポテンシャルとしては高い地域ではあるのですが、かつ、策定委員会をつくり、コンサルに委託してということでしっかりしたものができているのですが、イメージとしては農業・商業・工業、それぞれによく整理されていたので、これを一つ参考にしていけたらと思っております。この後にやる現状と課題が大事で、そこから必要な今後の取り組みとか何が必要なのかといったことを抽出していき、そこをさらにその次の会では、全体のビジョンは何にするか、あらかた事務局のほうで案は考えていきますが、皆さんでもどのようなものかということをお話し合いいただければと思っております。あとは農業・商業・工業、それぞれのビジョン、方針、方向性ですね。これも次回、ここで案を出して落としつつ、さらに現状と課題を確認して、基本方針、どういった取り組みが必要かということこの後考えていければと思っております。

ビジョン、基本方針を決める上では、現状と課題の整理がすごく大事で、どこの自治体もやはりここにすごく時間をとっているようではあるのですけれども。本当はこれについては、農業で1回、商業で1回、工業で1回やっていきたいのですけれども、時間のない中ということで、取りまとめでやっていく形にはなりますけれども、この後、現状と課題を皆さんを出して議論をいただいた上で、事務局のほうでビジョンが、どんな問題か、どのような取り組みが必要なのかということを考えていきたいと思っております。

それで、市の産業、事業者の持続的発展をとる、その中で今なかなか成長というのは難しい時代になってきていると思うので、地域で循環、維持できるものをビジョンとしてつくっていければと考えております。なので、皆さん、ちょっと議論をいただいて、この案ではここを直したほうがいいのか、やはり計画でないだめだよねということがあれば、またおっしゃっていただければと思います。できましたら、事務局としましては、何とか来年の春の作成を目指す上で、皆さんにも協力いただきながら、このようなイメージ、このとおりというわけにはいかないかとは思いますが、このような流れでこのビジョン案でご理解、ご承認いただければなと思っております。以上、よろしく願いいたします。

○鈴木委員長 ありがとうございます。ただいま、事務局のほうから産業振興ビジョンの骨子案、目次のようなものでございますけれども、説明がありました。第1回目からは産業振興計画ということでお話を進めてきたのですけれども、事務局から説明のとおり、市の産業である農業・商業・工業が持続的発展を遂げながら成長していく方向性ですとか、方針を示すビジョンにしていきたいということであったと思います。この案につきまして、ご意見ですとか、賛成・反対など、さまざまな意見あると思っておりますけれども、お願いできればと思います。どなたからでも結構ですので、よろしく願いいたします。

○委員 いいですか。

○鈴木委員長 はい。お願いします。

○委員 1章のところですけども。期間をうんぬんと言っていましたけれども、これを策定する意味というのは、次期の総合計画に反映させるためにつくる計画があるのだから。そういうスタートですよ。

○事務局 はい。

○委員 であれば、位置づけとしては、次期総合計画に反映させるためのものであって、基本計画が5年であれば5年ということで、関連性を持った計画でない。市一体的な計画の関連性を持ってつくっていかないといけないので、それは上位計画との調整の上でつくるべきだと思うので、5年というのは当然の施策になるのではないですかね。それと上位計画への位置づけというのは、基本計画の策定に当たって、このビジョンがその土台をつくっているものだということですよ。

○事務局 はい。今、おっしゃられたとおり、市の最上位計画は総合計画に当たりますの

で、やはりそれとは連動させていく、また総合計画を実行していくことの計画がこの産業振興計画、産業振興ビジョンに当たると思いますので、そこは事務局としても一体としてつくっていかないとならないということで、先ほども申したとおり、5年間ということで書かせていただいた次第です。

○委員 済みません、前提になるイメージをちょっと教えてほしいのです。この目次の骨子案というのは、それぞれ1行で書かれているのですけれども。例えばさっき別添資料の7で示されていた京田辺市のところにもいろいろビジョンとか基本方針とかあるのですけれども、1行で書かれているこの目次みたいなのは、例えば全体のビジョンとか分野別ビジョンということで、分野別ビジョンというのは例えば別添資料の7のイメージをイメージしているのでしょうか。というか、例えばそれでその下にある基本方針というのをこの京田辺市の基本方針ぐらいのレベルのことを書こうと思っているのか。それとか、あとその下の基本戦略というのはどこに当たるのかなとか。重点施策についてはどこが当たるのかなという。この1行だとイメージが湧かなかったので、どんなところをイメージされているのか。他の、これ京田辺市がすごく具体的に出ていたので、ここら辺をイメージしているのですよというのを教えていただくと考えやすいような気がするのですけれども。

○鈴木委員長 事務局、いかがでしょう。

○事務局 はい。今、言われましたように、イメージとしては今おっしゃったとおり、実は京田辺市のものをほぼほぼイメージしていきまして、まず全体ビジョンで、現状と課題から見えてくる必要な取り組みということでいきますと、第一頭に掲げて。農業・商業・工業、それぞれのビジョン、方針ですよね。こういうものをやはり現状と課題を踏まえた上で落とし込んでつくっていききたい。それをそれぞれ実行するために、さらに何の取り組みが必要なのだろうかということで、京田辺市のほうが基本方針でだいたい三つ四つで構成はされているのですけれども、このようなものをビジョンの実践に向けて実行していける必要な取り組みを現状と課題の抽出の後にたたき台をつくっていきこうと思っております。

イメージはやはり今、言われたとおり、ほぼこれと、京田辺市と同じイメージで、必要な取り組み事項を三つ四つ基本方針で考えていきまして、それをさらに実践するものとして、京田辺市ではアクションプランと言っていますけれども、基本戦略、重点施策というところで、基本方針に取り組んでいくのは何かということ、現状と課題の後に見えてくることだと思いますが、そこから推察される必要なところを考えていって。さらには、それで今現在、市でやっている取り組みが二つあるので、それは整理しながら、それぞれの項目に合致するところでは合わせながら、基本戦略ということで、例えばですけれども、農業の1、次世代を見据えた安定的な農業の担い手の育成というものが別添資料の7の京田辺市にあるのですけれども、これをさらに実行するものとして戦略シートのようなものが、京田辺市で基本戦略の1、2、3、2-1となっているのですけれども。このような形でさらに細分化したものをシートをつくって、そこに個別的に、農家形成とか担い手事

業だったりとかというのをワークシート的なものをつくっていきたいというふうに考えています。以上です。

○鈴木委員長 なかなか今の質問に答えていなくて。例えば4章はどこにあったのですか。

○事務局 4章が、基本戦略・重点施策というところになります。合わせた形になりますけれども、京田辺市のとおりということではなくて、白井市で今イメージしているものが、3章の3で分野別基本方針というものを取り組み事項を四つ考えた上で、それを実践していくプログラム、計画、プランとして、この基本戦略・重点施策ということワークシートということで4章でつくっていかうと思っております。

済みません。ちゃんと答えになっているかわからないのですけれども、そんなイメージです。

○鈴木委員長 よろしいですか。

○委員 はい。

○鈴木委員長 はい。その他、いかがでしょうか。

○委員 よろしいですか。京田辺のこのイメージに白井の情報を入れ込んでいくという作業はこれからやるということですね。

○事務局 はい。つまりこれを本当は先にやらないと、というところはあるのですけれども。やはり現状と課題が何かということの整理がすごく大事ななど。

○委員 今回はこういう構造で埋めていきますという方向づけがいいかなという。

○事務局 こういう内容で、おおまかにこういう骨格でいきたいなというところ。中身はまだこれからになります。

○鈴木委員長 なので、ビジョン案のきょうは目次が出てきたというところ。きょうはこれを決めていただかないと作業に入れないということですので、後ほど承認いただければ。

○委員 京田辺市の分野別ビジョンだと、農業・商業・工業・観光となっていて、それで別紙資料の農業における現状と課題のところ、右側の四つ目の丸に梨狩園などの観光農園が少ないというふうになっているのですが。この第4章ですか、農業のほうに観光を入れてしまうのか、それとも観光は観光で一応枠は、現状はありませんよ、でもいいから、何か枠を一応とおいたほうがいいのではないかなという気もしますが、どうでしょうか。

○鈴木委員長 事務局から。

○事務局 例えば京田辺の産業ビジョンの、資料7ですと、観光というジャンルがあったりということになっております。白井市の産業振興ビジョンの目次の資料によりますと、観光という項目は現在入っていません。これは少しペンディングというか、もう少し時間をかけて観光部門の議論を少しして、これもいきたいなどは考えているのですが。今現在、正直なところ、白井市で観光施策というのでしょうか、観光の取り組みを事業展開をして

いるというようなものがないということはあるのですが。現在の観光につながるような要素といいますと、例えば自然的なものと、手賀沼があったりとか。あとは市内を流れる小さな川があるというようなところ、その辺の散策をすとか。あと自然的景観であったり、昔ながらの農村地域の風景、そういったものをSNS等で発信していくような施策ですか、そういったものがあったりとか。あと農業でといいますと、梨狩りを考えていけないとか。そういったものはあるのですが、それを本当にビジョンとして挙げていこうかどうかというところを少し時間をかけていきたいと思っております。必ずこれはもうやらないというわけではなくて、少し時間をかけてお願いしていきたいと思っております。

○事務局 あともう1点、今の関連ですけれども。なかなか市のほうに観光産業、地域資源として発掘していかなければいけないのですけれども、観光ということを取り組んでいけば一番それが望ましいとは考えてはいるのですが、なかなかそうすると規模的なものであったり、どういったポテンシャルがあったりとかもありますし、今、川村のほうで申しましたとおり、観光というカテゴリーとして入れるのも手かと思っておりますし。あとは取り組み方針の中で、この中で梨狩りとか、例えば農業の分野の中に落としていくことも手法としてはありだとは思っていますので、そうしたことにも、それ以降現状と課題、また次回に、それについては皆さんでお話し合いいただければと思います。

○鈴木委員長 よろしいですか。

○委員 では参考までに。今回、自分、農業委員のほうをやっていますので、最近ふえているのが、ブルーベリーの摘み観光をまた今回も提案という形があって、ブルーベリーの観光がある。それで、その人が考えているのは複合施設なのです。その人たちとバーベキューをやります。それから、白井には陶芸家が結構いるのですよね。そういった人の複合施設というのがあると、少し将来的なものがあるかもしれないので、そこら辺を考えて、これから進んでいただければと思います。以上です。

○委員長 ありがとうございます。また、議題3のほうでもそういった意見いただければと思います。

○委員 今のですけれども、お時間を少しかけたいということだったのですけれども。これ、でもきょう、目次を決めてしまうのですよね。ということは、次回までにどうするかを決めるということですか。それとも、もうきょう決めちゃうのだったら、ここに観光が入らないのだったら、もう入らないのではないですか。時間をかける。はい、お願いします。

○事務局 この案を一応出ささせていただいておりますけれども、その辺は臨機応変に、やはりこれは観光があったほうがいいのではというご意見がまとまってくれば、それは加えていくということは全然考えとしてあります。ここで、全くこれはもう受け入れないよということではないと考えております。一応この案の方向で進めていきたいということで、きょうの課題としては、現状と課題までやっていきたいなというところを目指しています。

○委員 はい、わかりました。

○委員 大丈夫ですか。今のお話ですが、おっしゃっていたのは、枠をとにかく三つではなくて、もう1個つくって、それが観光なのか、どうなのかというのはこれから少し検討するにしても、四つ目がいるよねという話だと私は思っています。それが、観光がこの白井にいいのかどうかはまだちょっと僕もよくわかりませんが、そういうものを。定型バージョンでいえば三つなのだけれども、もう一つやはり要るよねというのは共通の認識で僕は言いたいなというふうに思います。そういう意味でお話になったのかなと理解しました。

○委員 観光のくくりというのは、京田辺市見ても、白井市も現在やっている内容なのですよね。企業の工場見学はやってますし、商工会さんの夏祭りだ、桜祭りだ、そういった祭りはやってます。ただ市の上位計画でも、市をPRしていこうというのは大きな課題になっているはずなのです。そこは観光に入ってくるわけですね。それから、文化財だとか七福神めぐりだとか、白井独自にやっているものもあるはずですから、それは観光として市をPRするため、これは商工業でも大変観光でPRするのに役に立ちますので、ぜひ入れてもらいたい。

○鈴木委員長 それでは、例えば第2章の2、3は、これ現状と課題というのはしっかり観光は入ってくると思いますので、当然この中には四つ目として観光を入れていただいて。第4章のほうにも四つ目のぼつとして観光の振興戦略プランということを入れておく。その結果、事業者が出なかったとかいったら、消さないといけないかもしれませんし。1ページ、2ページ、3ページとつくるのであれば、そういったことで皆さんのご意見をいただきながらつくっていくのがいいかなと。

○委員 私は他の章を見ると、この農業・商業、農業が入っていなければ商業・工業ということで区分けしているケースが多いわけですがけれども。我々の中小企業の団体なんかを見ていると、最近ですと、デイサービスとか介護関係、医療、そういうような会社さんが、あるいはNPOの方が入ってくるとか、そういう方が多くなってきたかなと感じております。農業と工業と、それ以外を全て商業であるとくくっていると、これからの発展的な方向性の中でちょっと抜け落ちる。比重として、あるのではないか。それが何という名前がいいのか。物販を商業だということであれば、その物販に、飲食は商業と言えとしたら、非物販系、例えば今言いました介護ですとか観光もそうなのですけれども、そういうくくりのところが一つ大枠としてあっていいのだろうなと。私もいわゆるサービス業的なものですよね。最近できてきたジムだとか、スーパーの上が簡単なジムができたり、あるいはまた学習系とか、子育て系とか、そういったものも含めて、商業の物販とは違うくくりのものが大きな比重、あるいはまた、そういう意味では就労機会をふやしていくという意味で、もう少し重点的に考えていい分野ではないかなというふうには感じています。

○鈴木委員長 それは、資料がいろいろと集まってきて、素材も集まってきた上で、もう

1プランつくるかどうかということは念頭に置きながら進めていければと。

○委員 済みません、事務局にお聞きしたいのですけれども。この目次に、最初に観光を入れておいて後で外すのと、それから、入れておかないで必要となったら入れるというので、どちらが仕事はやりやすいですか。

○事務局 私はそこまでは変わらないと思います。どちらも必要ということであればできますし。ただ、きょうの意見をいただくと、やはりあったほうがいいよねということなので、それを基本的にこのイメージできょうは承認をもらえたらもらいつつ、そこにさらに追加していきたいと思っています。

○委員 ありがとうございます。

○委員 それで、私がこの目次案を見たときに、今おっしゃっていたのはいろいろ観光とか出てきたりとかしたと思うので、これをざっと項目レベルで見たときに、これがいいよね、悪いよねと、実はあまり思えるところもなかったのです。というのが、よく言うと他のところでもどこでも使える、適用できそうなラインナップの目次になっていたから。だから、これが取り立てて何か他のところでもやっているから悪いのかなということはない、無難な感じになっていた。きちんと内容見ていく中で変化していくのかなと思っていて。今回はそのためのスタートとして、こういう形で見本のものができました。ここに対して、今後現状とか課題を見ていく中で、白井市特有のものがふえたり減ったりとか、そういうふうになっていくと思っていたのですけれども、そんな感じでいいのですよね。

○鈴木委員長 事務局。

○事務局 はい。今、おっしゃっていたように、私ども事務局のほうも皆さんの意見をいただきながら、白井らしさも、この目次のページの案ですが、あっているのではないかと考えておりますので、先ほど委員さんのほうから観光部門もということであれば、それはそれで加えて。それがまた他市とほぼ同じになってしまうというのであれば、またどこかで修正というか、同一性を持っていくというのは全然、今後も。ここで決めるのではなくて、最終的にこうなりましたという目次のページでもいいのではないかと考えております。

○委員 目次関係で、4章なのですけれども、さっきのいろいろな自治体のこの目次みたいなフレームのまとめとか見ると、習志野とか船橋なんかだと、これ以外に分野を横断するようなものを書けるようなところというのがあると思うのです。例えばこれ、農業・商業・工業といったときに、またがるような方法がいいよねというのがあって。さっきのもちょっと近かったと思うのですけれども、そういうものがあつたときには、一番4章になったときに、どこへにじませていくのかなというのがちょっと不明確な気がしていたので。観光なら観光だけではなくて、例えばここは梨が一番有名だと思っているのですけれども、梨で来た人を捕まえて、どうやって金を落とさせるのかということ、農業と商業にまたがるよね。そうしたときに、この中の分野、ジャンルで、4章でいくと、どこへ入っていくのかなというのがあるから。さっき言った船橋だと、3章の3に横断的戦略と書いてあるよ

うなところとか、あと習志野市のやつだと、事業計画の中で戦略が分野別になったものもあれば、なっていないものもあるというのがあったので、そういったのも書けるようなところもあったらいいのかなと。横断してやっていけるようなところと、その中で閉じてやれるようなものというのが一つあってもいいのかなという気がするのですけれども。

○鈴木委員長 はい、事務局。

○事務局 今、委員の言われましたとおり、これが全て正解というわけではなくて、今後こんなイメージの中で下案をつくっていきたいというところで、実際これが今後何かしら少しずつ変化していくのかなとは思っています。皆さんでこうしたほうがいい、これは入れたほうがいい、これが必要であるということがあれば、つくっていく中でどんどん追加され、多少変化していくものと思っていますし。例えば今、これに当てはまらないものとか、白井市独自のものを何かに落とす必要が今後も多分出てくるのではなかろうかという部分でも、それは例えば別添資料1の3章の4の中で、それは成田市とか船橋市、京田辺市もそうであったのですけれども、基本方針外のことや特出しする、こういったことが特徴があって、力入れてやっていきますといったことを別展開ということで入れているところがあるので、そうしたところを参考にして。恐らく現状と課題をやった後に、こんなことが必要だね、こんなものありだねと、我々では多分見えていない部分も多々あると思いますので、そうしたことをブラッシュアップして落とし込んでいって。最終的には、近いものにはなりますけれども、変化させて、白井市独自のものが完成していければと思っております。なので、これが全てというわけではなくて、その中に少しずつ変化をして、多少変わっていく部分はかなり出てくるかなとは思っております。

○委員 今、4章のほうでお話しになったのですけれども、私、3章のその他の施策展開というのもちよっと曖昧だと思っております。上の農・商・工と、それから観光を入れるなら観光が入って四つはいいのですけれども、そこの中のものに本来入るべき、例えば企業誘致による産業振興というのと、工業の話と商業と両方入っているのでしょうけれども、主に工業に私は見えてしまう。例えば、ふるさと産品を育成するというのも、これ農のほうなのかなと。どこかに吸収されてしまうものなのか、横断的なものなのか。それとも、もっと共通する、例えば広報とか、経営支援とか、創業とか、そういうものがその他に入ってくるのかなと。重複のないように、カテゴリーに入るものは入れて、完全に共通するものとか抜けるものをその他施策に入れてビジョンにつなぐ、戦略的推進につなぐとか。その辺の整理がやや曖昧かなと思っております。

○鈴木委員長 私も3の4だけ具体的なものが出て、これ書き過ぎだと私、思っております。ここは取りあえずきょうの段階では消したほうがよかったと思っておりますけれども。

○委員 こっちは後の段階で整理するときも、どういうものがその他になって、どういうものが本来の業種別に入っているのかというのをきちんと整理する必要があるのではない

かなと思います。最終的に共通のものとか、今、僕が申し上げた広報とかそういうものはまた特出しするというやり方していただけるとわかりやすかった。

○鈴木委員長 この六つは消しましょう。

○事務局 そうですね。そこは項目、これが成果品というわけではないので。

○鈴木委員長 検討することがあって。

○事務局 はい。一回一回見ていきますので。

○鈴木委員長 なくすというわけではなくて、検討するのだったら、この位置ではないかもしれない。

○事務局 はい。こうしたほうがいいという意見をいただいている部分もありますし、そこは、よりなじむものを整理して入れていきたいと思います。

○鈴木委員長 申しわけありません。時間もありますので。

○委員 ちょっといいですか。この体系の中に、推進体制と関係者の役割というところが入ってきていないのですね。推進体制は当然、条例があるからこのネットワークが中心になって、市とか商工会、関係団体と連携しながらやるのでしょけれども。そういったものをきっちりうたっておかないと、検証するにも検証ができないですし。それから市の役割、商工会、業界団体の役割、市民の役割、その他といった役割も条例の中に入っていますけれども、改めてやはりここであらわしておくというのは必要なことかなと思います。

○鈴木委員長 事務局、いかがでしょう。

○事務局 今、言われましたとおり、推進体制とか検証とかということももちろん必要なことと考えてはおりましたので、その部分については、追加して入れるようにしていきたいと思います。ただ、それぞれの役割と事業主体については、第4章の戦略プラン、これが多分、基本的な計画的なものになるのですけれども、その中では個々の取り組みに対してはそれぞれ市が主体なのか、事業者主体なのか、もしくは市民の方なのかということを経営主体、役割別には、関係する方々の対象としては落とし込んでいきたいと思っています。

○委員 4章の戦略プランと具体的な実施する事業は個別のものですよね。そこに全体的な役割というのは落とし込めるのですか。全体的な役割というのは、やはりきっちり示しておく必要あるのではないですか。検証も含めて、KPIを設定しているわけですから、そこは、推進体制はしっかり整えたほうがいいのではないですか。

○事務局 例えばこれ、別紙資料3の成田市さんの産業振興計画に、6章立てで計画の推進という項目があるのですが、そういった、しっかりとジャンル分けをして、そこを資料として整理をするというところかと思うのですが。関係主体の役割であったり計画推進の体制というところでは、そういった整理をすることはやっていければと思います。

○鈴木委員長 5章に入れるということですか。

○事務局 イメージとしては、5章でそれを追加していくイメージになると思います。一

度ブラッシュアップしてやっていきます。

○鈴木委員長 それでは、議題1の意見、きょうはこのぐらいにしたいと思います。

それと、産業振興ビジョンの骨子案については、本日承認をいただきたいということで、先ほど出てきました意見をまとめますと、第2章と第4章のほうに観光というものをそれぞれ入れるということと、第5章に計画の推進というものを付け加えて、第3章の4、具体的な要素六つの項目は削除ということ。さらに、特出ししたものがあるということから、検討したほうがいいものが産業としてはあるということであったり、連携させたほうがいいということがあるということで、これは今後検討を進めるに当たってどういうふうに入れるかというのは、検討していただくことにしてもらいたいと思いますけれども、この目次案に入れずにしっかり記憶にとどめて、皆さんの検討を進めていただくということで、こういった修正を含めまして、今回出ております産業振興ビジョン骨子案について進めていってよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

それでは、続きまして、議題の2番のほうに移っていきたいと思います。議題の2番は商業・工業アンケート集計結果報告でございます。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 現状と課題についての議論の今後たたき台の下案を作成していく上でものすごく大事なものですので、議題3のほうで特にご意見いただければなと思っております。

まず商業と工業と。本当は農業を足せばよかったですけれども、農業のアンケートに関しては、本当に大変申しわけないのですけれども、今、国の調査が同時に行われている関係があつて、農林業センサスですね。これをやっている関係があつて、それで合わせてアンケートを同時期に行ってしまうと混乱も出るというのがある関係があつて、農政部門のほうからちょっと時期をずらしたいということでお話がありまして、なので、今後、実施はしていきますので、次回の会議のときには、アンケートを行い、集計結果を出せるかなと思っております。示していきたいと思っています。なので、今回は商業と工業のアンケートについて、ご理解いただければと思います。

ではまず、別紙資料4をごらんいただきまして。白井市商工業の活性化に向けたアンケートということで、今回は報告になります。まず回収率が16.4%。これは、ちょっと時間がなかったということもあつて協力いただいて、商工会の会員さんに配布させていただいたのですけれども、配布数550に対して回収数90点、回収率16.4%。この数字ではちょっとというところはあるかと思いますが、ただ、白井市内の実は物販店舗というのは250ぐらいしかありません。このアンケートからも、商工会員がいらっしゃいますし、個人事業主も多々いるので、その中で最初11月を期限にしていたのですけれども、なかなか集まらずに30点程度しかない中で、最後は人海戦術で市内の店舗をほぼ回収に回って、何とか集めたのがこの90点でした。なので、商業ということでポイントを絞った場合には、本当はそこを絞ってアンケートをとるべきではあったかとは思うのですけれども、だいたい250

ぐらいの店舗中 90 点ということであれば、対象だけを考えれば、そこそこになっているのかなとは考えております。

あと商工業に関しては、工業団地のほうが 5 年前の比較データを出しているのですけれども。5 年前に市のほうでは、まち・ひと・しごと創生総合戦略というものをやっている関係で商業者向けのアンケートをとってはいたのですけれども、そのときは民間に委託をしてやっていた関係で、質問項目とあと対象がちょっと違うというところもあって、比較させられる部分もあったのですけれども、あまりにも誤差、差異が大きすぎたので、今回は商業アンケートに関しては、今回だけのデータということで、あくまでも参考までにとということでご理解いただければと思います。

考察については、この 4 で書いてあるとおりなのですが、ポイントだけちょっと説明しますと、やはり一般的に言われていることが課題となっております。まず一つは人材不足、高齢化ということがやはり大きな課題だなと思ひまして。1 ページの設問 1 とページ 6 の設問 10 を見ていただきまして、設問 1 からは、経営者の方がやはり高齢化していると。50 代以上の方が 6 割を超える状況で、一方で 30 代の経営者の方は約 1 割にとどまっているということ。あと 6 ページ、設問 10 で、やはり経営課題として、人材不足・雇用の確保ということが一番の課題ということで挙げられていることから、やはりこの辺が最も大きな経営課題かなと思ひます。その次に、売り上げの減少とか他業種の同業者との競争なんかもありますけれども、今までは人材不足、人手の確保が一番の課題かなというところが見てとれました。

次に、二つ目では、設問 4、ページ 2 を見ていただきまして。店舗が、営業年数が 30 年以上といったところがほぼ半分以上という一方で、新規の 5 年未満の事業者は約 13%、1 割ということで、なかなか新規出店と創業が進まない。そこでちょっと魅力的な部分だったり、近隣状況だったりとかいろいろ課題はあるにせよ、新規の出店というところが少なく、代謝が弱いというところが見てとれます。

次に、やはり経営環境の厳しい事業者も多いということで、設問 9、ページ 5 を見ていただきまして。ここでもなかなか経営状況が増加、やや増加というところで 44%、約 4 割強なのですけれども。ただ一方で、減少、おおむね減少と回答しているところも 38%、約 4 割近くあって、業績を伸ばしている店舗もあれば、依然厳しい店舗もあるというところで、経営支援的なものも求められるかなというふうに思われるところです。

商業に関しては、見た感じだと、これは正しいのか正しくないかということもありますし、商業事業者の方も含めて、この後、議題 3 でより詳しい現状と課題を意見交換いただければと思っております。

次に、別添資料 5 の工業団地実態調査をごらんください。これはまち・ひと・しごと創生総合戦略というものを市のほうで作成していて、各政策部門のほうで、白井工業団地協議会に市のほうから委託して実施していただいた内容になります。ただ、今回ただけて

いる資料が、5ページからの集計結果を今我々のほうにいただけている状況です。分析結果については、今、中を調整しているところで、おおかたできているとは聞いてはいるのですが、まだそれは出せないということだったので、それについては、多分次回の会議でお出しできるかなと思います。この5ページ以降の集計結果を元に事務局のほうで考察してみたのが、この1ページから4ページになります。これが正しいのか正しくないのかということもありますし、これ以外のことも多々あると思いますので、その辺のことはやはり議題3のほうでいろいろと皆さんに議論、こういう現状、こういう課題あるということをおっしゃっていただければと思います。また、工業関係者の方についてはその辺のことも踏まえて、より細かく説明していただければありがたいというところです。

では、ポイントだけちょっと説明をしますと。1ページの3で、雇用形態別等従業員数というものがあります。表3、8ページをごらんください。ここで、一番上の2015年の正規従業員の合計と2019年の正規従業員を比較してみますと、4.8%、約5%上昇した結果になっております。ただ一方で、よく見てみますと、その下、パート従業員の合計が2015年では2,068人から1,353人、実に34.6%も落ち込んでいます。さらに、各市民の雇用状況については、その上でまた正規従業員の2015年の市民というところの数字で675名から、2019年、うち市民で532名ということで、これも21%減少しています。なおかつ、下のパート従業員の市民では、2015年が504名だったのが2019年では334名ということで、33%も落ち込んでいる状況。こうして見ますと、また1ページの3番に戻っていただいて、従業員については、トータルでは7,496名から7,041名とマイナスであり、パート従業員は34.6%減少していて、なおかつ市民雇用では12.3%にとどまっています、大幅に減少しているということがわかりました。つまり市民の方の雇用が他の業種などに移っている。工業団地に、あとは何かしらの取り組みが必要なのかもしれませんし、ここに一つの課題があるのかなと思われまます。

次に6番の、5年前の売上高との比較についてということで、表5、10ページをごらんください。10ページの表5では2015年と2019年を比べまして、増加とやや増加が両方ともふえていて、全体的には業績を伸ばした事業者が多いのかなということがわかります。全体的には売り上げを伸ばしている事業者のほうが多かったデータにはなっているのですが、ただ一方で、減少と回答している事業者も2015年は38件で2019年は23件で減ってはいるのですが、2019年に減少と回答したのが23、やや減少は43件。この数字を多いのか、少ないのか、どう捉えていくのかということもあろうかと思えます。事実、工業団地内で全体的には業績を伸ばして、いい方向ではあるのですが、中には1社2社、毎年廃業していく事業者もあります。そうしたところの穴埋めというか支援というか、こうしたことも一つ、何かしら考えていかなければならないのかなと思われまました。

では、次の2ページ目の10番の、経営課題のほうを見ていただきたいのですが、

表9、12ページを見ていただきまして、やはり経営環境は、最も多かった回答は人材の確保、従業員の高齢化というところで、この辺大きな課題であり、何かしらの取り組みは必要なのかなと考えます。また、その他に価格競争の激化とか工場設備の老朽化といった数字も比較的高い回答になっております。あとそれ以外については、例えば市の要望事項であったり、こういった取り組みが必要だよということで、ランダムに記載いただいた欄もありますので、これはこのようなことがあるということでご理解いただければと思います。

アンケートの報告については以上になるのですけれども、アンケート以外、これが正しいのか正しくないのかとか、事実こんな問題、こんな課題があるよということは、その次、議題の3で皆さんでいろいろ意見を、こんなことが必要、こんな現状あるよということをお話し合っただけであればと思っております。報告については以上になります。

○鈴木委員長 ありがとうございます。ただいま、アンケートの集計結果について事務局から説明がありましたけれども。

○委員 ちょっと確認だけいいですか。済みません。商業のほうの質問10、11、12についても、これ全部選択式ですかね。選択式でアンケートをとっている。自由記述。

○事務局 全て書いておけばよかったのですが、三つまで回答くださいという質問にしています。なので、重複している。

○委員 では最初に、こっち側で用意したやつに対して答えるということ。

○事務局 そうです。

○委員 そうですよね。わかりました。

○委員 事務局にお聞ききたいのですけれども。別紙資料5と4の表紙のところ、真ん中ら辺なのですけれども、工業団地のほうは白井工業団地協議会に委託という形というのと、7月から11月ということで調査期間が4カ月というのはあるのでしょうか、回収件数が297件で72.4%となっておりますけれども、商工業の活性化に向けたアンケートに関しては、対象事業者に郵送ということと、11月1日から12月27日の約2カ月で、これが550件配布して90件、回収率が16.4%というと、何か他にもし原因とか心当たりがあったら教えてください。

○事務局 今の話で、最初ちょっと説明させていただいたのですけれども、確かにこの数字だけ見たら、この数字でこのデータを使うのはどうなのかなと思います。まだまだ我々の努力も足りなかったところではあるとは思いますが。ただ、時間のなかでアンケートをさせていただいているということと、今回、商工会に協力いただいて、そこから発送してもらったところがあって。会員数全員を対象にしてしまったところがあって、その商工会の会員の中には、やはり個人の、例えばサービス業もあるし、工業団地と重複した事業者も多々あります。あくまでも商業というカテゴリーで考えた場合には、実は経済センサスでいえば270、80ぐらいの数字なのですけれども、白井市内の純然たる商業の物販店舗というのはだいたい250件ぐらいしかなくて。その250件について職員で回って

回収して集めた数が 90 ということで。本当はそこにターゲットを絞って、そこでとればより、分子分母の関係ではあるのですけれども、数字上は高い数字では集められたというデータではなかったかとは思いますが、そこはちょっと時間がなく、絞り切れないということで商工会にご協力いただいたということで、数字上はちょっと低い数字になってしまっているというところです。

ただ、商業の、より広く見ていかないとならないから、より広く集められればそれに越したことはなかったですし、我々の努力も足りなかった部分だとは思っていますけれども、何か 90 件という数字は、商業者というターゲットに絞った中での 90 という件数で参考にしていくしかないのかなというところで、そんな状況の中でこの数字ということでご理解いただければと思います。なので、これがそのまま使えるとかでもなくて、あくまでも参考ということで利用していければと思っています。以上です。

○委員 ありがとうございます。では、いいということで。

○鈴木委員長 本質的な間違いですので、皆さん意見をいただく前に言っておきたいのですけれども。90 は統計的には大丈夫だと思うのですけれども、集計、統計のやり方に間違いがありまして。質問 10 以降なのですけれども、複数回答の場合であっても、例えば質問 10 に回答した人の数で割るのです。例えば、一番上にある人材不足とか雇用の確保は、割合でいうと 15% になってしまっていて、これは問題ないじゃんという感じになってしまうのですよ、私は。白井市さんは。他市さんは 40 とか 50 とかいている、いくはずなのですよね。15% というのは 12 人に 1 人ぐらいしかいないので、こういう課題を持っている人。そうではなくて、ここは分母は 90 なのか、その前の問 9 は 80 に減ってきていますので、80 とか。この質問 10 に回答した数で割ってください。そうすると、例えば 90 人を分母にすると、一番上の人材不足は 31% になります。80 で割ると 35% になる。そうすると、3 人に 1 人はこういう課題を持っているということになっていくということになりますので、そこは修正しないと課題がどこにあるのかというのはわからなくなってしまいます。今出ているのは、絶対数できょうは出ていますけれども。掛け算をしないといけない。何となく量でしかわからないということになっています。それは質問 10、11、12、複数回答のところは全てそういう間違いになっていますので、しっかり修正していただければと思います。

○事務局 済みません。修正してまいります。

○委員 私は 250 件全部回ったのかなというのがちょっと。数字のところを言われていて、250 件再度回って集めましたと言ったけれども、250 件全部回ったのかなとっていて。回っていて半分以下にしか返事がくれないって。もし回っていたのだったら失礼ですけれども、すると返事を半分以下にしかもらえないというのは何か問題があるのではないかな。逆にいうと、ひどい言い方をすると、市に何も頼みたいことなんかないぜという。市に頼んでも何も役に立たないしというふうに思っているのではないかとか、そんなふうは今聞きながら考えてしまって。もらえなかった原因というのが、もしそういうところにあるの

か、何か原因があるのだったら確認して。それで事業者よくするのだったらよくしないと、次回以降もまた積極的に参加してくれなくなるから、同じような結果が続くのかなとちょっと思っただけなのですけれども。済みません。

○鈴木委員長 事務局。

○事務局 大変申しわけありませんが、本当に我々の努力が足りないところはあったのですけれども。今、言われたとおり、全部が全部 250 全て回ったというわりには 250 に近い、市内でローラーして、店舗をゲリラ的に回って回収して回ったというところではあるのですけれども。ただ、言いわけになってしまうかもしれないのですけれども、確かに我々の信用度の低さもありますし。ただ、回った時期は、実は 12 月の年末の時期に回っていて、たまたまお店が特に多忙な時期に行ってしまった関係で、ほとんど、忙しいから後で書いておくという形で渡してきたということが現状としてあって。本当はもっと我々も 1 月にもう一回行けばよかったですけれども。ちょっとそこまではできなくて、この数になってしまったというところです。

○鈴木委員長 その他、アンケートについて、結果についての意見ありましたらお願いいたします。

○委員 感想ですけれども、いいですか。工業団地の実態調査の、まだこれは全部は出ていないという前提でと先ほど言っていましたけれども。考察のところの、多分市役所は予算のことがあるから触れたくないのしょうけれども、21 の自由意見のところなのですが、工業団地のインフラの整備水準がこんなに低いのかと、つくづくこのアンケートで僕は改めて感じてしまったので。300 社もちゃんとした企業がいらっしゃるのに。やはり産業振興政策としては、この辺をきちんとどうフォローするのか話し合う必要があるのかなと思ってしまいました。感想です。

○委員 ありがとうございます。認識を新たにしたいと。よろしくお願ひいたします。

○鈴木委員長 その他、いかがでしょう。

では現状と課題につきましては、引き続き次の議題の 3 のほうでも意見交換をしていきたいと思ひますので、これで議題 2 のほうにつきましては終わりたいと思ひます。ここで 5 分ぐらい休憩を入れたいと思ひます。再開は 3 時 20 分からにしたいと思ひます。

○鈴木委員長 それでは、再開したいと思ひます。では議題 3、農商工業にかかわる現状と課題に入ります。こちらまずは事務局のほうから説明をお願いいたします。

○事務局 では議題 3 の現状と課題についてですけれども、ビジョンの策定の上では目標や方向性、必要な取り組みを今後考えていく上で、やはり現状と課題の整理がすごく重要で必要なこととなります。アンケート結果に関することやそれ以外のところ、白井市の各産業の強みや弱み、我々が考えていること以外の現状もあろうかと思ひます。それを皆さんでいろいろ意見交換をいただいて、話し合ってもらって、それをまとめて次回フィード

バックしていきたいと思っております。

農業・商業・工業の現状と課題ではあるのですが、農業については、次回が中心になってくるかなと思っております。こうしたことをフィードバックして、取り組みであるとか将来像、必要なことを事務局案として考えていきたいと思っております。きょういただいた意見についてはホワイトボードにして落とさせてもらって、なおかつそれをまとめたものをまた次回出していきたいなと思っております。

いきなり現状と課題といってもなかなか出にくいと思いますので、たたき台というか、参考までということで別添資料をごらんいただきまして。これについては、別添資料6ですね。それにつきましては、アンケートや経済センサスや、これまでネットワーク会議で出ていた活性化に対する意見だったり、過去に26年度に意見書をいただいているので、そこからの現状と課題であったり、ごくごく一般的なことをたたき台として参考までに入れてあります。商業・工業・農業、それぞれ項目は違うのですが、大まかに三つぐらいに分けてつくってあります。

商業では、事業者の概況という項目と、言葉が統一されていなくて申しわけなかったのですが、事業者の経営状況について。それと、やはり商業ということで振興策とか商店街の現状みたいな感じで、この三つを項目ポイントとして、たたき台としては出させていただいております。

次のページ、工業では、これは工業団地に特化したものになってしまっているのですが、工業団地内の概況ということと、あと経営状況と人材確保と育成ということが工業事業者に関しては大きな命題かなと思しましたので、これを一つポイントとして、たたき台として入れてあります。

ただ、この後皆さんにお話し合いをいただきます現状と課題については、工業団地に限ったものではなくて、例えば復インターなんかには今ものすごく新たな事業者の集積が始まっています。そうしたことの現状であるとか、我々が見えていない部分での市民の方から見た状況であったり、農業・商業・工業、そういった方のそれぞれの事業者の見方とか現状とかを意見を出してもらえればなと思っております。

農業については、アンケートがまだなので、この項目は若干変わってくるとは思いますけれども、今の時点では、まず農業生産・販路、それと農業従事者、農地というこの三つのポイントで参考までに整理して落としてあるので、これを参考に、これやアンケートにとられることなく、それ以外の現状と課題を皆さんがどんどん意見を出していただければと思っております。これが、今後つくっていきます産業振興ビジョンに自然となっていくものになると思いますので、皆さんの忌憚ない意見交換をしていただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○鈴木委員長 ありがとうございます。今、事務局から説明ありましたように、ホワイトボードにどんどん出してもらったほうがいいということですよ。このような現状が他

にあるとか、あるいは課題ももっと深刻なものがあったりとか、こんなところに課題があるというのを出していただいて、次回までにまとめるということ。また、きょう、あと30分ほどしかありませんけれども、次回のほうにもまた同じような議題にしていければと思いますけれども。

まずは本日までで、ここまでの資料ですとか今までの経験等々で情報等ありましたらよろしく願いいたします。どなたからでも結構です。1人ずつ言っていくか。いかがでしょうか。誰か口火を。

出尽くしている感じですか、もう。この別添資料6で。

○委員 現状と課題と書いてあるのだけれども、どこが強みで、どこが弱みで、強みを伸ばし、弱みを減らすぞみたいな考え方なのだけれども、それが無いものだから、何か気がついたこと言うぐらいしか言えないような気がするのです。ですので、どこが強いから、この商業はいいところだから伸ばして、悪くて解決すべきところはここにあるのだよという整理がちょっと。これって必要なのかなという感じ。プラス意見ではないですけども、思います。

○事務局 今回の資料では、その点、現状と課題というまとめ方にしかなってないと思います。白井市の市として強み・弱みというところがあったほうがということですよ。それは、済みませんが次回までにまとめてご提示したいと思います。

○事務局 あと、我々で把握しているだけの現状と課題、強み・弱みというものだけでは、多分網羅していない、見えていない部分もあろうかと思うので、逆に皆さんのほうで、こんなのが進んでいない、こんな弱みがあるよね、こういうことが必要だということをご意見なりいただければ、その分助かりますので、その辺のもし何か気がついたことがあったらお知らせいただければありがたいと思います。

なかなか今回この場では出にくいという部分もあろうかと思しますので、このテーマについては次回もやるつもりでいますので、またそこに向けて考えてきていただければ助かります。今もしわかる範囲内で何か抽出していただければと思いますのでよろしく願いします。

○鈴木委員長 このシートには、先ほど議論された観光が出てきていないので、ここに出てこないような産業について、何か出てくるようなものが、出し方みたいなものがあってもいいかなと。観光については先ほど意見が出てきましたので、先にホワイトボードは用意されていなかったのですけれども、そういった課題はしっかり次回までにフィードバックしていただければと思います。

○委員 いいですか。私のほうは、白井市というのは人口が6万強、それから面積は35平方キロぐらい。市としては非常に小さい市ですね。これが継続して独立して市であり続けるためには、やはりコンパクトな市であるというのは、コンパクトにまとめないといけない。コンパクトシティという言葉もあるのですけれども、それを地で行っているのが、

この市役所周辺が、病院だとか消防、文化センター、公園、そういった施設が集約、駅が1キロ圏内にありますから、まさにコンパクトな市の体制だと思うのですね。

ただ、そこに足りないのが産業であって。白井の駅前、西白井の駅前が市の拠点である商業の拠点であるはずが、そこに人が集まらない。要は、消費者が集まらないコンパクトな駅になってしまっている。消費者を集めるための工夫というのは、そこに交通網を集約していく。バスも路線が白井駅、西白井駅に向かっていないのですね。ですから、消費者が駅に集まらない。コンパクトシティでありながら、コンパクトに白井中心部に人が集まらないという状況、それがあつたのだと思います。

それともう1点は、産業の集約されている工業団地。これが産業拠点であるはずなのに、そこにもバス路線が全く市内からは行っていない。行っているのは、新鎌とか高柳駅からバス路線が入っていて、白井駅、西白井駅からはほとんど使えるバスが行っていない。これでは市民雇用は図られないし、外から人材の確保も図られない。そこはやはり大きな、狭い範囲でありながら、人の往来ができにくい市になっている。そこを解決してほしいなど。それにはバス路線の増便であつたり集約であつたり。あるいは、もう一つは道路の整備。これが必要なところですね。それをまず解決する方策を考えてほしいなど。

○鈴木委員長 そうすると、産業ビジョンを越えて、総合計画とかの連携、市庁内の他の、本来ならばまちづくりと一体化した産業振興を進めるみたいなの。それは言うのは簡単なのですけれども、それをやるためには、やはり総合計画ですとか都市計画マスタープランですとか、そういったものと合わせて考えていく必要があるのだろうと。

○委員 私は白井の経験がまだ10年ぐらいしかなくて、あまりわからないですけれども。最初に思ったのは、人が行けないという話もあるのですけれども、人に来てほしい、行こうと思う店が少ないのですよね。特に駅前って、なぜか床屋さんとか歯医者さんがほとんどで、わざわざそのために電車に乗ったり車に乗ったりして行かないだろうというようなものばかりだから。なかなか嫌だなど。パン屋もなければ、何もないよというのがあつて。やはりここの人たちって、よそから来た私からすると、どうしても車なのだよなど。車で移動するところしか行けなくて、車で広がっている中での行けるところで成り立っている地区なのだなどと思って。だから、電車って、単純に都内に用事がある人たちが乗るだけになっているような気がして。いて。

もしかすると、どうあるべきかと考えたときに、本当にそこに、今、鉄道の値段は下げられないとか、そもそもすぐに行けないというところから考えると、本当にそこに市の拠点が持つてこられるのだろうか。逆に、持つてこられないのだったら、ベッドタウンとして発展するほうの道を考えてもいいのかなとか、ふと思ったのですけれども。私、ちょっとよくわからないので、詳しいことはわからないのですけれども。

○事務局 結論にはならないのですけれども。どうして白井の駅前がそういう状況になつ

たかという。ニュータウンというベッドタウンができて、本来の町ですと、電車賃というのがそこそこ安い中で、市民の働いていない主婦の皆さんとかも、駅前で電車を使ったりして動くというのですか、どこかへ買い物行って、帰りに駅に寄って、ちょっと駅前の商店街を見て帰っていくみたいな動線があるのですけれども。やはり北総線の日本一高いというような、そういう流れがあって、どうも駅前行って電車に乗るのは高くつくというところがあって。車で、例えば新鎌に行ってしまうというような動線が。このニュータウン事業が成り立ってからずっと長い間に、そういう駅前に寄りつかないような仕組みができてしまっているよだというのが。それは私どもが言ってしまっただけではないのですけれども、流れなのかもしれないです。どうもそういう傾向が白井、西白井というのは強い。会社勤務の方は定期がありますので、電車は当然、利用していくというところがあるのですけれども、どうしても駅前というのがあるがたい場所であるという認識が、どうもこの白井市については少し少ないという状況があって、今の現状ができてしまっている。

または、その商店街が少し活気がどうしても湧かない、人が集まらないという。バスも、先ほど指摘がありましたけれども、要は新鎌まで行けば、すごく安い運賃で首都圏まで行けるみたいなところがあるのですけれども、そういう駅前行って本来は首都圏に行くというルートがいいのしょうけれども、何となくそこを避けてしまうというところが。現状をありのままにいうと、そういう状況が何十年も続いてきてしまった結果が今の駅前をそういう状況にしたというところが現状としてあったというのは反省をしないといけないのですけれども。そういう感じがふえています。

○委員 とても素人的な意見かもしれないのですけれども。単純にわかりやすく言うと、インスタ映えするようなスポットがないというので、多分行かない。駅前には何もなければ、行く理由がないという。本当に歯医者さんとか耳鼻科とか、そういうところしかないのです。

あと、北総線が高いからというのは、もう本当にずっと多分言われてきていて、皆さんそう思っているのだろうとは思いますが、それを免罪符にしてほしくないのがちょっとあって。高いけれども、多分行きたいという店があれば行くのですよ、若い人たちは特に動きやすいので。それこそ主婦さんとかではなくて、高校生とかでもいいわけじゃないですか、動くのは。学生さんでも全然いいので、何かしらそこを高いけど行きたいと思う何かをてこ入れしていただければ、多分人は絶対集まってくるので。本当に一市民の意見としてはあります。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

○委員 いいですか。

○鈴木委員長 はい、どうぞ。

○委員 今、西白井とか白井駅には何もなくておっしゃいましたけれども、昔、何年か前までは、本屋さんちゃんとありましたよね。でも今やめてしまったのですよね、本屋さん

とか、つい最近。やはりそれだけ人が来ないこと。

それとあとは、私が今住んでいるところは、この第一小学校のすぐ裏側になるのですけれども。そこから駅まで歩いて行くと約2キロちょっとあるから、30分40分かかるかな。でも、だいたい車で行くことが多いのですけれども、そうすると、今、駐車場というのがなくなってしまっているのですよ、とめたいところに。同じ駐車料金を600円出すのだったら、新鎌まで行ってしまうと600円でとめられるのですよ、十分に、いろいろなところに。だから、そういうのを考えてしまうと、やはり交通費が新鎌まで、金額が結構300円いかなかったりするでしょう。だったら、どっちみち車とめるのだったら、新鎌まで行って車とめて、あそこから行ったほうがいいかなみたいなのところがあって。そういうのを考慮してしまうと、なかなか電車って乗るのが、それこそその用事がない限り、使わなくなってしまうのですよ。

○委員 事業者系から、私から言わせてもらおうと。今、鎌ヶ谷と白井ということで、私どもの中小企業の団体が二つの市を地盤に団体を、支部をつくったのです。ただ、なかなか白井の地域で役員会を開く、例会を開くような場所が便利なところがないのです。例えば、西白井の複合センター、白井駅の駅前センター、こういったところは地元の住民の方を優先しますので、公民センターとか、あるいはコミュニティセンター、そういったところを利用してくださいと。事業者系がそういう駅に近いところの施設はできるだけ利用しないでくださいという姿勢がずっと貫かれています。そういうこともありまして、我々の会は、両市の方々に構成されてやってきたのですが、いつも鎌ヶ谷市でやってきた。そのために、白井の方がだんだん遠いから、新鎌ヶ谷の辺りは、夕方大変混むのですね。行くのに余分に20分も30分もかかるということで足が遠のき始めた。そして今回、白井と鎌ヶ谷とそれぞれに分かれて、新たに白井でつくろうということになったら、どこでそういう例会をしたり、役員会をしたり、いい場所がないかなということで、若干苦慮しています。

そんな意味では、もうちょっと駅前センターとか複合センターも、事業者も法人として固定資産税を払い、産業にも貢献している。そういう中で、こういう産業振興のネットワークですから、ぜひその辺にもスポットライトを当ててもらって。終わると飲み食いするわけです。本当だったら駅前で買って、そこで食べて、電車に乗って帰られればいいのですけれども、そういうところが過去において、なかなか改善されなかった。今は少し変わってきてつつあるのかもしれませんが、そういう実情のところはあります。

だから、本当に白井駅前辺りのそういう事業所系の事務所があるかということ、なかなかないですね。その意味でも、どっちが先かということになるわけですが、実際のところは、もうちょっと駅前に人が来るような施策、今回の総合政策の一環としてこれが位置づけられているわけですから。にぎわいのある町というのは3本の柱のうちの一つですから、やはり白井駅、西白井駅がもう少しにぎわう施策を重点的に我々のほうでも課題として取り上げていくべきだろうというふうに感じております。以上です。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

○委員 今回のこのビジョンということで、いろいろ白井の産業を皆さんが真剣に考えてくださっているということをもっとありがたいなと思うのですけれども。私は商売をしていて、いわゆる土着の人間としては、まずこの中でもあんまり少ないほうだと思う。二、三人しかいらっしゃらないと思う。でも、そういった中で、先ほども10年だとおっしゃっていましたが、皆さんも白井という土地に来て、何とか白井をよくしようと思って、いろいろなアイデア、いろいろな意見を出してくださるので、すごくそのこと自体はありがたいなと思うのですけれども。得てして、私が商売して、年数だけでいえば、今の場所で130年ぐらい商売しているらしいのですけれども。おやじが元々は酒屋で、今も酒屋ですけれども、なかなか酒屋としても成り立っていかなくなってくる。昔は酒、たばこ、塩持っていれば食いつぶれないうんて言った時代もあったらしいのです。そんなこともあり得なくて。そんなこと考えると、これは、一、私のことが全てではないのですけれども、先ほどのアンケートのことも含めて考えると、おおむね書いてあるようなことが、だいたい私も同じような感じだなと。皆さん、こんなような感じで、売り上げも何となくやっとなんと、むしろ減っているぐらい。

その中でやっていくと、現実にかこうしたアンケートに、例えば先ほども国や市に期待していないのではないかとということもありましたけれども、期待していないというよりも、期待の仕方がわかっていない、私のことでは、どうしていいのかわからない、もう日々の仕事だけに追われてしまっているというのが現実で。多分私も、同級生なんかで5人ぐらい同じような商売をしていた人がいたのですけれども、今一緒にやっているのは2人だけで、あとはみんなやめてしまっている。みんなそれぞれ、私より大きい酒屋だったり何かやっていた人なのですけれども。それはどうしてかということ、どっちが先かわからないのですけれども、お客さんが減ったから店がだんだんしぼんでいって、結局はやめていってしまうという、流れとしてはそういうことなのだと思います。それを頑張るというのが企業努力でしょうといえ、そのとおりのことなのですけれども。

最近思ったのは、商工会の人から、国のこういった事業があるよと、中小企業の助成金が出るよと。例えば私、今、弁当が中心で息子がやっているのですけれども、弁当の配達に車が必要だと、そういうあれを出すと、車が3分の2のあれで、だめもとで出してみましようよと。そういうことを商工会のほうから言ってもらって、改めてそんな書類を書くなんて時間はないのだけれども、職員の人全部やってくれと。結果的に車1台購入して、現に3分の2国から補助してもらって、今そういったことで。ただ、縛りもあって、いろいろな配達をした記録を残しておいてくれと。実際、今老人ホームとかそういうところにも頼まれて配達に行く。

そういった、市であったり、商工会であったり、人がそういう、私は商売のことしか知らないの、そういう商店主なり何なり、こんなアイデアがあるよということをお話してく

れて、それをまたやってくれると、また少しずつ力が出てくるのではないかと。単なる、これは現状という意味で、課題とまではいかないのですけれども、今、私の現状ということとそんなことを感じていて。皆さんがいろいろなアイデアを出してくれることはすごく、事業に入ってしまった本人は、もうこれで目いっぱい、そんなことをできるわけないよという。頭から出てこない。むしろ、何にも知らない消費者だったり、他の職業の人だった人が、あそこ、こうすればいいのにということを言ってくれる、それがビジョンに反映するのだと思うので、なかなか自分のことについては、意見という意見は出せないのですけれども、現状という意味で、今そんな感じを感じています。以上です。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

○委員 私は白井の端のほうの平塚という、今、工業団地の問題で交通が不便だよと。うちのほうも茨城と印西から結構遠くて、うちの前なんか朝すごい、うちから1時間ぐらい出られないぐらい車がいっぱい通る。そういう車が通るということは、工業団地でも駐車場が必要になってくるということですよ。そういう無駄なことを少しでもなくせば、経営も少しよくなっていくのかなとも思いますし。464 という道がとても生活道路としても成り立ってしまっているの、その道路沿いへとうまく、印西にしる鎌ヶ谷にしる、共同でうまく客を取り込めるような形にしていけたら。白井単独ではちょっと難しいのかもしれないですね。と思います。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

○委員 今の意見、道路が、茨城方面から工業団地へ向かう量が多くて、それでなかなか通行が大変なぐらいだから、茨城のほうから通うよりも白井の地元の人が通えるようになったらいいのではないかと、そういう意味合いですね。

○委員 そうですね。

○鈴木委員長 お願いします。

○委員 自分は今こうやって話を聞いていて、駅前というのもあるのだけれども、自分は平塚にいます。そこはどっちかというところと農業が中心で、あと工業団地があるという状態なのですけれども、やはり里山という感じで、いいところを残すというのもあるかなと。公民センターとか分校、そういったものを利用して体験イベントをやる。でも、農家がこの例えば分校で朝市やりますよといったとき、商業さんのほうの出店とかそういうやつが加われば、にぎやかになって、それで人をまた呼べるかなというような。だから、産業振興ネットワークというふうにならなければならぬのは、これもしかしたら地域の活性化の人たちと、それから商業さんとか工業団地のほうとかと手を組まないと、ただ農業だけで農家の人を守りましょうとか、農地を荒らさないようにしましょうというのは、もう無理な時点に来ているかもしれないかなと思います。だから本当に、ネットワークでいろいろな人がいて、それで、観光ではないけれども、里山という何かあって、イベントや体験、そういったものをうまくみんなで話して盛り立てていければいいかななんて思いました。以上です。

○鈴木委員長 ありがとうございます。いいですか。

○委員 私のほうは、商工会の立場としてしか話にはできないのですけれども。既に商工会、特に商工業者という形にくくりますので、商業・工業、全部ひっくるめて、サービス業全てのものの業種の方が対象になっています。ただし、従業員が20人以下と、いわゆる小規模事業者に特化した指導、これは国の施策という形の中でのものですから、しょうがないのですけれども。今、例えば工業団地さんのほうの会員さんうちのほうに入っていると思います。ただし、全体で見ると20%しか入っておりません。商工会に入っていればいいとか悪いとかではないのですけれども、やはりこれは一つ、国の施策としてできた組織ですので、組織率というものが常に国、県から求められております。今現在、白井市では40%ぐらい。正直なところ、経済センサスの事業者数を分母にしていると40%。これは千葉県の全体の商工会からいっても、組織率が低い状況でございます。これは総務省の統計からとっているもので、一概には言えない、常に廃業等がございますので、それを何年度の統計でということではあるのですけれども、その組織率というもので、私どもは、商工会の立場としてはなかなか現状としてはそういうところが伸びないのかなと。産業振興条例というもののなかで、他のところではそういった、まずその地区で商売をするに当たっては、その商工会とか工業団地とかそういったものに加わって盛り上げていくというのが一つ、これからですけれども、うたわれていくのかなというところで、期待もあるのですけれども。今、商工会館もちょっと老朽化してきて、なかなか拠点として厳しいところがあるので、今後皆様のご意見とかも取り入れながら、一緒にこういったもので参加させていただいて、一歩ずつ皆さんと共有できていければいいのかなと。まとまりませんけれども、今そんなことを考えています。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

○委員 私、経営者でもない一社員にすぎないので、拙い意見で申しわけありません。だいたい三つぐらいになっていますけれども、交通の絡みですね、インフラ整備の中でやはりモータープールのものは必要なものかなと思います。それが観光に、人を集めるための拠点のようなものも必要となってきますので、今すぐではないにしても、いずれそういうところをつくっていければいいのかなと思いました。

あとは、教育的なもので、職業訓練。私も工業団地に勤めていますので、今、工業団地の中で職業訓練所みたいなものというのが特になくはないと思いますので、そういうものをつくることによって、よそから技術を得にくる人たちもふえるし、その方たちが白井市に就職してもらおうようなこともできるかと思ひまして。それは工業に限らず、商業とか、今ここにいらっしゃる皆さんもいろいろなノウハウを持ってらっしゃるので、そういう方からも指導を受けるようなことができるような場所があれば、そこから雇用とかにもつながっていくのかなということを思いました。

あとは、後継者問題的なものになりますと、現状、地域からだけでは難しいかなという

のも少し思いまして。例えば、ちょっと失礼な話になるかもしれないですけども、他県でよく会社をリタイアされて田舎のほうで農業をやられる方とか、そういう話もあったりすると思うのですけれども、例えば、よその地域で退職された方が白井のほうで梨とかのそういうのを手伝いをしてもらいながら、それが例えば一つの家ではなく複数の家でやってもらえるような、そんな形にできることがあれば、人もちょっとふえてくるのかもしれないし、技術的なものも継承といいますか、そういう職業的なものも継いでいけるのかなとも思いまして。そのような形で思いました。

○鈴木委員長 ありがとうございます。その他いかがでしょうか。よろしいですか。

○委員 私、新参者なので、よかったと思うこともあるのですよ。実は白井に来てよかったと思ったのは、空と道が広いのです。私、この前は池袋に住んでいたのですが、池袋って、道歩くときに、ペットの散歩をさせると踏んづけられたりとか、自転車でひかれそうになるというのがあったのですけれども、ここに来たらゆっくりペットと歩ける。特に鎌ヶ谷と比べても、全然道が歩きやすいというところがあって。すごくそこって白井のいいところだなと思っていたのですけれども。このアンケートを見たり、さっきのお話から聞くと、駐車場がないと。逆に私は、広いから土地はいっぱいあるのだろうなと思っていたのですが、駐車場がないのだというのはちょっと意外だったのですけれども。そういうところで、東京で働く人が住みやすい、東京の次、東京のアフターで来られるような住めるような町になっていけたらいいのかなという気がするのですけれども。東京にいと、すごくせせこましい人間になるのですけれども、こっちのほうは少し心が穏やかになった気がしております。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

○委員 よろしいですか。

○鈴木委員長 はい、どうぞ。

○委員 今の話で、東京と気温が1度か2度違うのですよ、夏。電車降りるとスツとするの、この町は。そういう暮らしよさというのが僕はすごく大事だと思っていて。さっきの観光もそうなのですが、皆さんのお話を聞いていても、北総線の運賃が高いというのもそれはあるのだけれども、市内の暮らしよさをもっと突き詰めるべきだと僕は思っています。それに何が必要なのか、いろいろなアイデアが出てくればいいと思っています。

駅前には、だから事業者さんが会議室借りられないのは、僕、結構ショックで。そんな運営しているのかと。公民センターなんかどんどん貸してしまえばいいじゃんと思ったり。人が集まらないって、おもしろくないから集まらないのだけれども。必要がないから集まらないので、そういう必要をきめ細かく拾って、何においても住みやすさというのを事業者の人にとっても、住民にとっても、そこをもっともっとアイデアを出すべきだと思います。

○鈴木委員長 ありがとうございます。時間も来てしまいましたので、議題3の議題はこ

れぐらいにしたいと思います。また、今回出てきました意見につきましては、次回フィードバックしていきたいと思います。また、いろいろアンケートの結果も次回出ているかと思しますので、農業に関することは、またそちらのほうでも議論いただければと思います。

最後に、議題4になりますが、これも事務局のほうから何かありますか。

○事務局 事務局から、最後に2点ほどお知らせがあります。

1点目なのですが、きょうの最後の議題でありました現状と課題を踏まえて、その他に気がついたこと、あと今回、ビジョンの標語、将来像はこのようなものがないなどのお考え等ありましたら、今回の資料を送付した際の案内文の下にメールアドレスを記載していますので、5月下旬ぐらいまでにご連絡いただければ、次回の会議にそこを加えることなどができますので、よろしく願いいたします。

○鈴木委員長 済みません。今、最後の2点目のお願いは何でしたか。標語と言いました。

○事務局 標語。この分野別ビジョンというか、こういった文章にしたほうがいいのではないかというようなところですよ。

○鈴木委員長 どこだろう。

○事務局 配付したもの、提案のものに何かあれば、意見をいただければというところですよ。

○鈴木委員長 自由に意見ですね。

○事務局 そうですね。次に、2点目なのですが、次回の会議は、現在7月上旬ごろ、候補日としては7月3日、6日、7日で今、検討させていただいています。これから調整していきたいと考えております。事務局からは以上となります。よろしく願いいたします。

○鈴木委員長 ありがとうございます。質問、よろしいですか。

それでは、本日の議題はこれで終了となります。

○委員 済みません。ちょっと心配事があって。来年の3月までに、これ春ぐらいまでにつくろうよと言っていたのですが、あと2回ですか、これ集まるのが。

○事務局 3回でございます。

○委員 3回。その3回でこれができるのやらできないのやら、すごく不安なのですが、そこら辺がもう少し作戦をしっかりしてほしいなと思っていて。今回この京田辺市というのを一つベースにされているような気がして。そここのところ調べてみると、あそこはもう全体と各部会に分かれて、全体だと20人ぐらい、部会で7人ぐらいで、8回実施して、1時間、三、四時間かけてやって。それでコンサルも入っているというお話だったので、それでやっとなんかつくっているものを、これをあと二、三回でできるのかなというのはすごく不安なのです。ですから、あと3回でつくるのであれば、その3回でつくる、次回はここまで決め切らないといけないというのがあって、全体として、ほらできるでしょうというような作戦というかスケジュール感みたいなものというのか。そこら

辺をちょっと示してもらえると安心して、ここまでやれば、次回とりあえずいけるのだというのわかるので。すごく今の段階では心配なのですよ。

それと、さっき目次も、おおむね無難な線が多いですよという話をしていたのですけれども。それと同じように、課題もどこかで見たようなものがいっぱい並んでいるような気がするのです。共通のものが多い、他のところでも同じように出てきているものが多いと思うのですよ。であれば、このかなりの時間抽出して話をするのであれば、他のところもせっかくいろいろな自治体のを集めていただいているのだから、そこで同じものがあつたら、そこに対して、こういうふうな対応をしていました、こういうふうなことを決めていましたというのがあれば、先人の知恵ではないですけども、それをベースに話ができると思うので。そのほうが多分時間の短縮になるし、それが品質も上がると思うのですよ。他のところ、コンサルを入れてこういう案にしたのだというのだったら、それをパクらせてもらって、もっといいものにすればいいじゃんと思うので。そういうふうな工夫をしないと、多分使えるものとかいいものが期限までにできないような気がしていて、ちょっと不安なので、進め方の全体像をみんなに示していただいて、安心できるようにしてほしいということと。

もう一つ、進め方を今みたいな、できるだけ時間を短縮できて品質も上げられるような方法、例えばそういった方法を工夫してもらおうとありがたいなと思うのですけれども。以上です。

○事務局 どうもご指摘ありがとうございます。次回、そういった対応をしていきたいと思えます。またご指導お願いいたします。

○鈴木委員長 それでは、終わりにしたいと思います。お疲れさまでした。